二月十五日夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價、一部金貳錢　一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

往生と成佛

眞繼雲山

淨土門は、自身を罪惡深重，煩惱具足の凡夫と知りて、その凡夫ならざる佛を仰ぐの教へである。

斯くいふと『俺は泥棒した覺えも懲役に行つた事實も無い』とムキになつて憤慨する人もあらうが、佛教は法律や道德ではなく、心の問題をいふのである。そこで、純一無雜にして清淨絕對なる如來を對照としてその佛心にひとしからざる部分の一切の曇りを罪惡といふのである。

淨土門といへども悟りを佛の體となすに於て異存のある筈はなく、その悟りの反對である迷ひに立脚する一切の心と言葉と行爲とを煩惱といふので、罪惡とは煩惱の意である。

聖道門は即身是佛と說くが、それは敢肉妻帶煩惱具足の身心そのまゝを佛樣だといふのではなく、本來の面目を是れ佛と指したのである。本來の面目とは、さうした淨穢善惡に染まぬ本然の姿であるゆえ、即身にして成佛したりとは、諸佛菩薩の步まれたる純一絕對の道を我れも步む身の上になつたことであり、その純一絕對に成り切つたことを意味する。地上の釋尊は正しくその御身の上であつたと拜されるが、聖者にあらざる私たちが果たして現身に、さうした身の上に成り得るや否やといふことが問題であり、そこに淨土門が生れる。

淨土門は彌陀の願力に乘托して、その大悲に攝取せられるのである。普通にはこの凡夫身のまゝお淨土へ迎へ取られると說くが、事實は凡夫身に宿つた如來心だけが淨土に往生するのである。如來心の宿つたときに往生を得るのであるゆえこれを即得往生といふ。

聖道門は己が心內に佛を見つけて、それを眞實の我れなりとし、それ以外の雜念妄想を一切空化と破却しその拂ひ畢つた即身即時に成佛の工夫を見つけるのであるから即身是佛である。

往生を成佛と、その語は異るも、その中心たる佛の外の一切事象は、皆なこれそらごと、たわことでありとし、空中の樓閣、幻化でありとする。その幻化を捨てゝ眞實を取るが佛法の極意である。

月夜

たみゑ

靜かな月夜だ
人通りの少ない街
二人の男女が行く
突然！
家の中より出て來た男
じつと月を見ながら
しんどそうな口調で
「あゝあ　月はいゝし…」
女は男の顔をみて
につこり微笑つた
明るい月の夜だ

梅毒　淋病
專門
淋病　皮膚病　婦人病　十二指腸虫病
松村　胃腸病　科醫院
平南町　電話一七〇

難波醫院
平町新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

冬服衍揃ひ
紺色柄物……→三ッ揃……拾貳圓
最新柄スコッチ……→三ッ揃……拾三圓五十錢
最上紺黑サージ……→三ッ揃……拾六圓五十錢
高級品ウーステッド……→三ッ揃……拾九圓
平町　正札堂洋服店　電四三六

お客樣本位の……
正確な時計
好適の眼鏡
平一　常盤屋時計店

平町鍛冶町吉田屋呉服店西隣り
齒科
口腔外科　齒槽膿漏科
治療科　補綴科
矯正科　齒列
◇受付は午前八時より午後八時まで
但し急患者は此の限りにあらず
東京齒科醫學士　中村文一
中村齒科醫院

◎◎◎◎◎◎◎
お茶の値下斷行
本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ
煎茶四十目袋入　十錢より五十錢まで
香りのよい家庭德用別焙
ほうじ茶四十目袋入十五錢　第二號十錢
配達　迅速
風味本位　銘茶本舖
平町三丁目　大勝園
鈴木義忠

石炭　コークス
まあ！
よく、此の品がこんなに。お安く頂けますこと
わたしお隣ひもりへお奬めしませうかしら
（良い品を安く賣る店）
電二三七番
阿部石炭商店

◇各候補の豫想票御記入に御使用願ひます

町村	有權者數	鈴木	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計	木村	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計
平町	四、四三九							一、二一三	四八三	二、〇一三	二二	一、六九六	二、二三四
內郷	五、三六九							六二八	三八〇	三、〇六二	一九一	一、〇〇八	三、二五三
好間	二、二六八							三九二	一七〇	一、二五六	一五〇	五六二	一、〇〇六
赤井	一、四一五							一九〇	一九四	八〇五	二九	三六四	八二四
平窪	六二八							二五三	八二	三一七	三	一、二三五	二四〇
小川	八七四							二四九	一三六	三五四	九	三六五	三六三
永戸箕輪	八〇八							九九	九一	四四五	九	一九〇	四五四
三坂澤渡	八二九							五三	二〇四	三八六	七	二五九	三九三
神谷	六七三							八一	三〇七	二三三	三	三八八	二四六
飯野	六四五							一六七	三三	一七六	五	三〇〇	三〇九
高久	五一五							三一八	六四	一七五	一七五	一九二	二五〇
夏井	五四〇							三一九	七三	二七二	一九	一八二	二九一
江名	一、一四四							三二六	七六	三六九	一五三	四〇四	三四二
豊間	七三六							三二五	五〇	二四一	七二	二八五	三三三
鹿島	三八三							六四	五一	二〇〇	三八	一一五	三二八
玉川	四八二							六三	六九	二四七	三〇	一一三	二七七
磐崎	一、三〇一							二一九	一二八	一、一一〇	八八	三五七	一、一九八
湯本	二、八二八							二〇七	一三五	二、〇五四	三六	三四二	二、〇九〇
四倉	一、四五四							六八五	四四	四一四	七一	七二九	四八五
草野	八七四							三七八	一六八	二四一	四	五五六	二四五
大浦	八四九							六三三	三三	一四一	二七	六六五	一六八
大野	七七〇							三四一	一二五	二六一	五	四五六	二六六
川前	五九二							四一	九六	三一三	一六	一三七	三三八
植田	一、一三五							四四七	三〇	五六六	一	四七七	五一七
泉	七七五							一八八	八二	三七八	三	二六九	四〇九
渡邊	四〇八							一三九	四四	一八〇	一五	一八三	一九五
錦	六二二							三〇六	四一	二七〇	一	三四七	二七一
山田	六四七							三九八	四	一八八	一	四〇二	一八九
川部	六九三							二四〇	四五	三三一	七	二八五	四〇
勿來	一、五三二							四四二	八九	七五五	八	五三一	七六三
上遠野	九一三							二六五	二五	四四四	六七	二九〇	五一一
入遠野	八六五							一五七	六五	四三九	七一	三一三	五一〇
田人組合	一、五〇八							二一〇	一五	五五七	二	三三五	五六八
小名	一、九七九							三九五	四三	六〇〇	四〇	八一八	六四〇
合計	四一、五三〇							九、九六一	四、〇三五	一九、七八二	一、五一四		

双葉郡

町村	有權者數	鈴木	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計	木村	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計
久ノ濱	八二二							二〇九	六二	八六	二七三	二七一	三五九
廣野	八六九							二六三	六一	一五〇	三四五	三一四	四九五
木戸	五九九							一〇三	六三	六四	三〇九	一六五	三七三
龍田	六三二							七九	一五三	一九	三六〇	二三一	三七九
大野	八一七							一七	一三	一七	三八〇	一四八	三九七
富岡	八一七							九八	八〇	三五	五三六	一三八	五六一
上岡	七六二							三三	六三	一八	四七二	一三六	四八〇
川內	八九九							二〇		三五			
熊町	六三〇							三〇	七〇	九	四一四	一〇〇	四一三
新山	七三七							八九	二二四	六	二四一	三〇三	二〇七
長塚	四九二							九九	一二三	一九	三三〇	一八二	二四九
請戸	五三七							七	五三	七	三三八	六〇	二四九
幾世橋	三八七							五	七二	三	二七〇	七七	二一三
浪江	一、〇九六							四〇	一八三	一七	六七五	一三三	一九二
大堀	七四一							一〇	一四七	一七	四七四	一五七	四八一
苅野	七〇五							一〇	一四三	一五	四五三	一五三	四五八
津島	四三六							一	八五	一	二八一	八六	二八二
葛尾	四七〇							一	二七	四	三三〇	二八	三三四
大久	四三三							一九九	四〇	一四	一三五	二三九	一四九
合計	三、六一七							一、二三三	一、八二九	五〇六	六、六三六		

相馬郡

町村	有權者數	鈴木	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計	木村	佐藤	比佐	家氏	政友合計	民政合計
中村	二、六二〇							二四	五一八	一三	一、五一九	五五二	一、六三二
大野	七六〇							八	一五六	六	五〇二	一六四	五〇八
飯豊	六八四							三	一七一	三	三八五	一七四	三九七
八幡	四九八							四	五一	四	三七五	四五	三七九
山上	四〇四							二	四四	三	二五四	一六六	二五九
磯部	三八九							一	七四	四	二五四	一七五	二五七
駒ケ峯	五〇四							三	二四五	五	一八七	二四八	一九二
日立木	四〇七							〇	五〇	二	二六〇	五〇	二六二
上眞野	八七四							三	三三〇	三	三八五	二四二	三九七
眞野	五九四							一七	一二八	一〇	三一七	一三八	三三七
八澤	五一八							五	一一五	七	三一一	一一三	三一八
鹿島	六八三							二	一九六	一七	三五〇	二一三	三六七
原町	二、〇四七							六三	六二三	九〇	一、〇〇三	七一三	一、〇九二
新地	七一四							四五	四六五	六	九四	四七一	一〇〇
福田	三一九							三	二〇四	四	一四七	二〇七	一五一
金房	八三一							九	一二五	一四	五四〇	一三四	六七四
福浦	八〇三							三〇	一六三	七	四四〇	一九三	一七〇
石神	一、三七一							三三	三八二	三	七〇七	四一四	四〇三
太田	六〇四							一三	一二一	四	三七六	一三四	四一五
大甕	八四五							一九	二六八	〇	四〇二	三〇七	二六八
小高	一、二六一							三〇	一五三	五三	八四八	一八三	二〇六
新舘大須	六四一							三	二一〇	二	三〇三	二一三	二一三
石橋飯曾	六七四							一	一五六	六	三〇〇	一五七	一六一
高、平	五八八							四二	二一七	一三	二〇〇	二九九	二三七
合計	一九、六二〇							三九〇	五、[illegible]四	四一〇	一、〇二五		

同胞朝鮮人の有權者が百廿二名

來る廿日に行はれる衆議院議員選擧に際し投票權を有する同胞朝鮮人の有權者は濱通り第三區全體に百廿二名あり縣下一の數を示して居るが殊に平署管内に多く八十一名を算し是等は何れも炭礦方面に永住的な有權者達で内郷村のみにても六十三名の多數を占めて居ると

各派舌戰 明十六日

△鈴木候補 廣野 富岡 新山 浪江
△佐藤候補 下市萱 永井 上三坂 中三坂
△比佐候補 飯野 高久 鹿島 夏井

縣下中等校 柔劍道大會 磐中に開催

縣下中等學校の本年度各種競技擧行に就いて三月中旬頃各中等學校の武道科主任が磐城中學校に協議會を開くが多分磐中では八月一日頃柔劍道大會を割當開催される筈であると

平稅務惜敗 昨日の卓球戰

既報 マルトモ運動具店主催の縣下卓球大會は昨日午前九時より同店ホールに行はれ郡下の代表的十餘のチーム及び遠征の福島電燈チームを迎へ大熱戰を演じ結局遠來の福電チームと平稅務署チームの決勝戰となつたが平稅務は奮戰効なく惜くも敗れ優勝カップは福電チームに落ちたが準決勝戰よりのスコアー・メンバーは左の如くである

準決勝
平第一 2―3 福電
平稅務 3―2 常磐銀
決勝
平稅務 2―3 福島電
(平第一)志賀、小林、合津
(常磐銀)川角、大坪、鈴木
(平稅務)阿部、加澤、三浦
(福島電)中山、人見、木幡

農事問答 神谷村で

石城郡農會では昨十四日午前十時から神谷村小學校に於いて同村の役場吏員小學教員農業技術員並に一般農家の子弟を招集、農作物栽培に關する質疑應答會を開き農作物の諸智識を涵養したと

紛失した現金 無事に戻る

石城郡神谷村小野藤次郎(五〇)は昨日午後五時頃處用の爲め平町に出掛け買物の歸途揺槌小路附近を通行中懐中して居た現金廿五圓餘を紛失したので直に平署に屆出たが同夕七時頃揺槌小路の吉根ハル(一七)さんが同所地内で拾得平署に屆出た爲め無事當人の手に戻つたと

佐々木兵曹 補欠で召集

平町八幡小路九、豫備海軍一等兵曹佐々木誠氏は今回横須賀海兵團の補欠召集を命せられ十六日午後二時十分平驛發列車にて入團の途に就かれると

ヒヤカシの 客同志喧嘩 顔面に傷

石城郡豊間村字沼ノ内漁夫芳賀武兵衛(四二)は十三日夜九時頃同村薄磯の飲食店濱屋事小林マキ方に立寄り素見中是も素見客の江名南町漁船機關手山本爲吉(三五)と些細の事から口論となり遂に兩名大立廻りを演じたが山本は所持して居た發動器の機具様のものにて芳賀の顔面に全治三週間の打撲傷を負して歸宅し駐在所員に取押へられた

湯本の山火事 損害六百圓

石城郡湯本町字堀坂地内山林で十三日午後六時頃突然發火し折柄の西風に煽られ大事に至たらんとするのを部落民が發見午後八時頃山林十數町歩(損害六百圓)を燒拂つて鎭火せしめた

穀檢事務視察

過般來濱三郡地方の穀物檢査事務視察中であつた宮城縣穀物檢査本所の農林技手星藤兵衛、紺野應の兩氏は本日來平、穀物檢査平支所管内の業務視察を行つた

平窪産業總會

石城郡平窪村農會並に産業組合では昨十四日午前十時より同村小學校に總會を開き本年度豫算に就いて協議し終つて木名瀬平穀物檢査所長の産米改良と題する講話を聽取した

縣外農事視察

石城郡錦村農會では過般の總會の結果縣外視察員として秋山技術員外八名を囑託したが十日午前六時泉驛發列車にて茨城、千葉、埼玉方面へ出張した

■求人之部
△材木運搬 卅才前後 日給六七十錢位(平町某)
△女中 廿才迄 尋卒 月十圓位迄(平町某辯護士)
△旅館女中 廿五才迄 尋卒 月三圓外チップ(小野新町某)
△理髪師 廿五才以下 高卒 月十圓前後(平町某理浦店)

■求職之部
△出前持 廿八才 尋卒 給料面談(南町某)
△洋服職 一八才 高卒 給料面談(湯本町某)
△兒守 一四才 尋卒 給料面談(内郷村某)
△鐵工 廿六歲 尋一修 給料面談(栃木縣某)

明日のラヂオ 十六日

仙台放送局

今晩の部
▼後六、〇〇 子供の時間 童話劇「小公子」東京放送童話劇協會
▼後八、〇〇 中部支那事情特別講座「上海に於ける各國人」前東亞日支書院教授清水董三
▼後八、三〇 運動競技日本拳闘クラブ主催「拳闘試合狀況」日比谷公會堂より中繼
▼後九、三〇 奉天より放送を中繼す
▼後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部
▼前九、一〇 料理献立「オイスタースープ」小林忠雄
▼前一〇、三〇 家庭講座「春に應はしい女兒服の作り方」(三)木田翠明
▼後〇、〇五 映畫物語「磯の源太振袖勝負」長門武郎
▼後二、〇〇 家庭大學講座「心得置くべき醫學の知識」醫學博士平松鶴吉
▼後六、〇〇 子供の時間 お話「西行法師」廣島高等學校教授北島葭江
▼後七、三〇 選擧講座「第三次普選に際して」東京市長永田秀次郎
▼後八、〇〇 浪花節「雷電爲右衛門」東家鶴燕
▼後八、四〇 琵琶「桶狹間」宮崎錦陽
▼後九、一〇 三重奏 ヴァイオリン小沼南水夫 フルート藤原仁郎 ピアノ板倉金十郎
▼後九、三〇 奉天より放送を中繼す

天氣豫報

今晩は北東の風曇り
明日は北西の風曇り

平町人事

回出生
△北目八七 當時東京市淺草區清間町三ノ一一 一ノ瀬總四郎氏二女二三子

回婚姻
△一丁目二九 當時仙臺市本町通八〇安田ハル(二四) 宮城縣名取郡生出村字茂庭佐藤胞右衛門(三四)

回死亡
△北目町八七 當時東京市淺草區清川町三ノ十一 一ノ瀬二三子(一)
△仲間町六九茂野トメ(一七)

一册の代金で御希望通りな五册の雜誌が自由に讀める
川崎巡回文庫 電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

息忠一儀豫而病氣中の處養成不相叶二月十二日午後八時死去仕候に付此段御通知申上候
追而來る二月十六日午後一時より三時迄谷川瀬眞乘寺に於て佛式に依り告別式相營み申候
昭和七年二月十四日
石城郡飯野村大字谷川瀬
父 山崎吉平
親戚總代 須田秀典
友人總代 伊藤淺之助

江戸前料理 御重入辨當
寄なべ はまなべ 鳥なべ
ちりなべ かきなべ
ゼヒ一度御試食下さい……
迅速出前 錦水
田町末廣東隣り(電話四五四番)

小説

(百五十二)

渡邊默禪作
布施平八郎畫

【禁轉載】

未亡人の秘密 (2)

斯くして二人は五十圓宛の當座手當を與へられて十文字家を立去るべく命ぜられた。

この治右衛門の處置振に對して源之助は甚だしい無情冷酷の仕打だと憤つた。そして氣強く反抗しようとしたのを千代子が傍から柔らかに和めすかして、少しばかりの手荷物を携へ憐れな二人の後姿を夕闇のうちに見せたのが、長いさすらひの旅路に上る名殘の首途であつた。

川島と共に解傭になつた高野熊吉は、それから未亡人の郁子をのみ附け廻してゐた、

その熱心が遂に彼の女の秘密を包んだ殻の一角を切崩して、或る隠れだ事實を捉まへ得るに立ち到つた。

郁子の秘密さへ握つて了へば手もなく自分の物になると然う具据をつけた高野のおもわくは十文字家から離縁をされたので狂ひが出來た、何故なら良人の有る身分なればこそ暗い罪の影を怖るゝ弱味があれ、もとの獨身生活に立戻れば何を爲さうと自由だからであ[illegible]で、彼は自然覗ひ處を變へて外方面から郁子の心を捉へなければならないやうな事情の下に立たされた。

郁子は十文字家を出てから一旦麻布狸穴の生家に歸つてゐたけれど、兄の男爵光行と意見が合はないとやらで、間もなく自分の物になつた磯子の別莊に住むやうになつた。

そして門番の老夫婦を逐ひはらつて新たに女中や書生を抱へ、自動車も中古なのを何處からか買ひ入れて幾んど毎日のやうに出て歩いた。

最う凭うなつては糸の切れた何とやらで横濱のいろ／＼な婦人會の役員になつたり、國賓歡迎の席などへよく顔を出した。

口悪い若い仲士たちは彼の女に華麗外道といふ仇名をつけて呼んでゐた。

・それは前にさういつたやうな虚榮好きの或る伯爵の妹がそんな名の劇曲か何かを著はしたことがあつた。それを採つたもので、そのけば／＼しい華麗づくりと異性を誘惑するやうな眼つきとは、確に社交界に禍を成す美しい外道であると誰にも然う想はせた。

なんの分別もなく醉生夢死のうちに消光せし高野は足稠く別莊に出入した。そして郁子の歡心を買ふことを怠らなかつた、

でも彼の女の高野に對する素振りは前のやうではなかつた。

兎もすれば用事もないのに訪れてゆくのを蒼蠅がるやうな、他々しいあしらいをすることもあつた。

それも十文字家の問題があらかた落着いて仮令十分でなくとも取る物を取つて了つた跡だから、自分には最う用がなくなつた爲であらうと、彼は推測した……併し實際は然うではなかつた。

遺産管理人で清算委員である、治右衛門と舊の支配人川島との間にまだ決定せずにゐる重大なるいきさつが搦んでゐた。

勿論川島もまだそれに關聯してゐる郁子も表面には立たなかつたけれども、その事件の成行如何に依つては刑事上の被告ともなりかねない危險な位地に置かれてあつたのだ。

(時)(計)と(眼)(鏡)

高橋時計店

精幸堂號　平町才槻小路

美味！芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

貸切の●●●
御用命は？
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

平新川町十九
木村病院
電話一六四番
産科婦人科 院長 木村寅次郎
内臓外科整形外科 醫學士 松永憲一

外科
X光線科
性病科
外科
平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番
入院隨意

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舖
平町二丁目「電三」

大塚の
學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六.〇〇
半靴 五.〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……
大塚支店製靴部
電話七七番

[illegible] 關大藥局 電話[illegible]〇番